

平成22年度第1回安曇野市スポーツ振興審議会 会議概要

- 1 審議会名 スポーツ振興審議会
- 2 日 時 平成22年12月21日 午後7時00分から午後8時15分まで
- 3 会 場 豊科公民館 大会議室
- 4 出席者 下里会長・西村委員・丸山(順)委員・丸山(義)委員  
沖委員・降旗委員・臼井委員・宮島委員
- 5 市側出席者 丸山教育長・赤羽課長・青柳係長・深澤副主幹・中島主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成23年1月4日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (課長)
- (2) あいさつ (教育長)
- (3) 自己紹介
- (4) 役員を選任について

(事務局) <安曇野市スポーツ振興審議会条例説明>

この会の会長、副会長を選任していただくわけですが、いかようにしたらよいかお諮りする。

(委 員) 事務局案があったら、願います。

(事務局) ただいま事務局に腹案があるかという発言があった。腹案を紹介して、会長、副会長についてもらうということによいか。

(異議なしの声あり)

(事務局) 会長に安曇野市体育協会会長の下里安生委員さんをお願いしたいと思う。副会長には安曇野市体育指導委員会女性委員の青嶋愛子委員をお願いしたいと思う。みなさま方からの承認をお願いしたいと思う。(拍手)

(会 長) <就任あいさつ>

(5) 協議事項

①スポーツ振興事業について(係長より説明)

- ・スポーツ振興事業について
- ・安曇野市民スポーツ祭について

(会 長) 質問等あったら、お願いしたい。

(発言なし)

②スポーツ振興計画案について(係長より説明)

(会 長) 質問等あったら、お願いしたい。

(委 員) これについて、あと何回、会議をやるのか。

(事務局) パブリックコメントが1月4日に終わる予定なので、その結果を整理して次回の会議で諮問をさせてもらう。それで審議してもらって答申をもらうということなので、あと2回なり3回ってことになるかと思う。

(委 員) わかった。

(委 員) 23ページの数値目標の根拠は、何をもとに割り出しているのか。スポーツ実施率50パーセントというのは分かる。総合型地域スポーツクラブ数はまだできる予定はあるのか。

(事務局) 希望もあるが、できればと思う。

(委 員) 国のスポーツ振興基本計画では各市町村に1つ原則だが、中学校区に1つできることが望ましいということである。

(委 員) 最終的には中学校区単位くらいでいくのだけれども、29年度全部は難しいのでプラス1くらいを目指すということだね。

(事務局) そういうことだ。

協 議 事 項 等

- (委 員) 体育協会もここまでいかない間にも1万人を超えたいと思っている。8千にまけてもらってある。そういう意味あいからいくと数値は何を根拠にしているのか聞きたい。
- (事務局) 現状の数値をベースにして国のほうで指針が示されているものはそれに則って形である。スポーツ実施率が50パーセントに上がることを勘案すれば、イベント参加者数も上がるし、施設利用者数も増えると思う。ただ、利用者の利用希望時間も重なることがあったり、施設のキャパシティの問題もあり、いきなり1.5倍にするのは難しいので、そういったことを勘案しながら調整させていただいた。こういう計算をして出したというものはない。かけ離れた数字もいけないし、希望のない数字でもいけないので、その辺は勘案して決めてある。
- (委 員) わかった。
- (委 員) 生涯学習推進計画、第一次総合計画といった上位計画と用語の使い方がフィットしていないのではないと思う。私的には安曇野っていうのは、「す」に濁点で「つ」に濁点は好きではない。健康都市あづみのとひらがなで書いてあるが、生涯学習推進計画では安曇野になっている。上位計画が漢字ならあえてここでひらがなを使う必要はないのかと思う。そのところをもう少し考えてもらいたい。2ページの計画策定の意義目的というところが、はじめから少子高齢化、地域の人間関係の希薄化っていうような重たくなることからでてくるもので、この辺はスポーツすることでいいことがあるのだけれども、こうだと表現の仕方をスポーツの良さがあって問題があって解決策があるパターンがいいと思う。これだと寂しいかなと思う。それを補う言葉が市長の前書き部分に出てくるかもしれないが、言葉を考えたほうがいいのかと思った。
- (事務局) 先ほど委員のほうからあった数値の根拠については、一部であるが、市の総合計画と整合性をとるということでそこの目標を入れてあるということである。
- (委 員) 14ページに施設の改修に対する考え方で豊科南部総合公園屋内運動施設の建設時に廃止とあるがどの辺まで話が進んでいるのか。
- (事務局) 南部総合公園に体育館をというの、豊科町のときからの懸案事項になっていて、合併協議会でも協議されて、市になってからも整備に対する考え方を検討することになっている。南部総合公園に体育館建設が具体的に決まったら廃止ということで、いついかにやるということは決まっていない。
- (委 員) 関連して13ページに施設の位置づけ・役割分担を3つに分けて書かれている。こういう位置づけで施設を捉えてくれているのだと思って14ページを見ると南社会体育館が廃止となってしまう。身近な施設として残しておいたほうがいいという思いの3つの区分けなのに総合体育館というと大規模な大会を想定した拠点施設だと思う。拠点施設を造るのだけれども、身近な施設の南社会体育館のようなものが廃止というのはギャップがあると思った。それなりの理由はあると思うが。
- (事務局) 拠点施設は市民が使えない施設ということではない。体育施設は市民のみなさんに使っていただくことが大前提である。その中から核となるものや大規模大会も開催できる施設があるということである。南社会体育館は建設から年数も経過しており、近くに2つの同じような施設があるということは難しい部分もある。どちらも検討事項ということである。
- (委 員) 廃止というと決定したというような感じがする。体育施設を新しく造るということを多くは望めない。南部総合公園に新しく体育館ができることはいいが、だからといってつぶすことはない。何とか存続できないか。最近かわった施設の有効利用の計画をたてる中で絶対量が少ないと思う。耐用年数とかそういうものもあって修理していくのにお金がかかるってことになるかもしれないけれど、ここで廃止って方向を打ち出してしまうと終わりにになってしまう。そういうことも考慮してほしい。

協 議 事 項 等

- (事務局) 南社会体育館は昭和48年の建設で38年くらい経過している。当然、今後も使うということであれば、きちんと耐震診断をして大規模改修もしていかなければいけない。そういった中、南部総合公園に体育館ができたときに本当に南社会体育館が必要なかってあたりは、今後も利用状況を見極めながら、判断させていただきたい。廃止ということも考えてやっていかないとすべてを現状維持していくことの難しい時代がきている。
- (委員) 南部総合公園にできる体育館の規模の問題。大きい市に行くと総合体育館があってそこにサブやトレーニングセンターが付いている。そういう中で小さい体育館も活用できるような形でやっている。そういうことも総合的に含めてやるのであれば、いいという話にもなる。その辺の内容も分からないのでクエスチョンにしておいたほうがいいと思う。中身がはっきりしたときに示せばいいのではないかな。
- (事務局) 南部総合公園に体育館を造りましょうという経過をはっきりは把握していないが、あそこに体育館を建てるにあたっては条件があると思う。サブアリーナ、トレーニングセンターという話があったが、安曇野市全体の施設を見ながら判断しなければならないと思っているので、その辺は理解を願いたい。
- (委員) 中学校部活動との連携が書かれていないのでどこかに入れたほうがいいのではないかな。16ページの地域を代表する競技者を育てるためにというところがいいのかな分らないが、これからは中学校部活動との連携も必要だということをスポーツ振興計画の中でもうたっておいたほうがいいのではないかなと思うので考えてみて欲しい。
- (委員) スポーツ少年団の立場からして地域を代表する競技者を育てるために競技スポーツの振興という見出しや現況や課題を読んでみて、スポーツ少年団の本来の理念とは違う。競技ということが全面に出すぎている。そういうことが違和感、抵抗がある。中学校部活動との連携ということうまく合わせながらできればいい。体育協会の傘下ということではどうかという要素も強くなりつつあるが、ちょっと違うという感じがした。
- (事務局) 体育協会、スポーツ少年団が競技だけではないことは分かっている。ただ、上部大会にできる性格や傾向は強いのかなということで入れさせていただいてある。スポーツ少年団、体育協会という名称はうたっていないが、底辺の拡大というようなことは前段のほうでスポーツに親しむ環境、生涯スポーツの推進ということに含まれているということで理解いただきたい。競技力の向上という部分では、この団体のみなさんが強いという意味合いで載せさせていただいた。策定委員会の中でもこの部分については、意見はでなかった。
- (委員) スポーツ少年団というのは、いろいろなスポーツを体験させるのが目的なわけ。その中で競技的な活動にもものびていくと思う。
- (委員) 関連して言わせてもらおうとここに体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブがでてる。例えば、体育協会も競技力向上は一つの柱として考えてはいるが、それだけではない。そういう立場でいくと、体育協会の名前がこのところだけででてるのは、体育協会の性格がどうも誤解を受ける部分があるかと思う。体育協会、スポーツ少年団への支援という形ではなくて、ほかの形で表現できないか。総合型地域スポーツクラブのことは交流のところだけででてるが、もっと並列的に書けないか。体育協会も交流という部分を大事にしていくことは自覚している。そういう意味でいくと全体的にこの部分を誰がどこまでに担っていくか。実際にどの組織が中心になって横の連携をとりながら推進していくのという形がまだ見えない部分があるから、ポツン、ポツンと体育協会とか名前がでてくると戸惑うところがある。体育協会は競技力向上だけやっている団体に思われてしまう。今日、初めて見せてもらってしっかり読まないうちなので、思いつきで言っている部分が多く申し訳ないが気がついたところを言わせてもらった。

協 議 事 項 等

- (事務局) ここに書かれている内容はすべて体育協会、スポーツ少年団に関わりがある。逆に体育協会、スポーツ少年団ということで掲げるわけにはいかない。
- (委 員) そのとおりで全部に関わっている。地域を代表する競技者を育てるためにの中にスポーツ少年団が位置づけられちゃっていて、現況と課題の中にもうたってあって競技、競技とでてくるとちょっと違う。きつすぎる。
- (委 員) 県のスポーツ振興計画に子どもの体育・スポーツ活動の推進というまとめがあって、その中に「児童・生徒が、身体を動かすことの楽しさやスポーツする喜びを体験し、生涯にわたり積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や体力を養うことのできる環境づくりを進めます。」っていうくくりになっている。そういうくくりでもいいと思う。具体的に体育協会がどうのこうの、スポーツ少年団がどうのこうのというのではなくて、スポーツをする習慣を身に付けるような環境づくりがいい。競技力向上のところは別枠でもうけておいたほうがいい。子どもの体力低下もさわがれているので、その辺も含めれば、一つの項目になるのではないかと思う。
- (事務局) 18ページの施策を見たらえれば、支援という形で書いてある。スポーツ少年団活動の支援という中には、スポーツ少年団活動がより活発化するよう活動環境の向上を進めますということでガチガチに競技、競技とっている表現ではない気がする。現況と課題の中ではそういった文面も見受けられるが、施策の中では活動環境の向上を進めるという表現になっている。
- (委 員) 競技という言葉が気になる。
- (事務局) 現況と課題の中にあるものか。
- (委 員) ここに入ってくる地域を代表する競技者を育てるためには違う。
- (委 員) 6ページのところを読むと意味合いがまるっきりないわけではないけれども、競技力向上の意図が強いのかと思う。違うところに入れてやったほうがいいような気がする。
- (委 員) 競技スポーツの振興というくくりの中でスポーツ少年団が入ってくることに違和感がある。スポーツ少年団への支援という言葉は、非常にいい言葉で十分納得できるが、ここにあるのは無理がある。
- (事務局) ここに位置づけたのは、逆の方向から位置づけてある。地域の中で体系だてて競技力の向上を図っていける組織として体育協会、スポーツ少年団の力がなければ、逆にそれはできない。個人の努力だけでは難しい。底辺から盛り上げ、育てていける組織ということでここに位置づけさせてもらった。
- (委 員) 競技スポーツという言い方を気を付けてもらえばいい。
- (事務局) 競技力向上と言っているので、競技スポーツと言わなくてもいいかもしれない。
- (委 員) 言葉も含めて見直して欲しい。ジュニア期から社会人まで見ればそれは大事。育成はスポーツ少年団だけのことではないから十分分かる。スポーツ少年団と関わった文章については気を付けて欲しい。
- (会 長) 他にはないか。  
(なし)  
ないようでしたら、その他で何かあるか。
- (事務局) 1月4日がパブリックコメントの締め切りである。その内容を整理して、すぐということであれば、1月中旬くらいに会議を開き、そこで諮問ということを考えている。協力をお願いしたい。